

* 吉田真純 (日本気象協会), 森 征洋 (香川大
学教育学研究科)

まで一]

講演者: 木田秀次氏 (京都大学理学研究科教授)

特別講演

題目: 「気候モデリングーグローバルからローカル

関西支部2005年度第2回例会について

日本気象学会関西支部は2005年度第2回例会(中国
地区)を以下のプログラムの通り開催しました。

日時: 2005年12月10日(土) 10:00-17:00

場所: 広島県立総合体育館小会議室
(広島市中区基町4-1)

発表内容: (*は発表者)

- 1 「2003年7月18日から19日の前線による大雨のメ
カニズム その1(線上降水帯の構造と特徴)」
*大槻道久, 栗原佳代子, 西川哲也, 岡崎賢治,
大谷修一, 金森恒雄, 堀江安男(広島地方気
象台)
- 2 「2003年7月18日から19日の前線による大雨のメ
カニズム その2(非静力学モデルを用いた再現
実験)」
*栗原佳代子, 大槻道久, 西川哲也, 岡崎賢治,
大谷修一, 堀江安男, 金森恒雄(広島地方気
象台)
- 3 「2004年台風23号で吹いた広島風のモデル実験」
*金森恒雄, 栗原佳代子(広島地方気象台), 片
岡文恵(リモート・センシング技術センター),
塚本 修(岡山大学自然科学研究科)
- 4 「2004年の台風により発生した広島風の数値シ
ミュレーション」
*田原慎也, 片岡文恵, 塚本 修(岡山大学自
然科学研究科)
- 5 「岡山県南西部に発生する積雲群の解析」
*小田博雅, 大橋唯太(岡山理科大学総合情報
学部)
- 6 「降水成分への中国山地と四国山地の役割」
*大原真由美(広島県保健環境センター)
- 7 「高速道路における霧による視程障害の実態に関
する研究(II)」
- *瀬戸信也(広島県保健環境センター), 宮田賢
二(県立広島女子大学名誉教授), 岡村温子
- 8 「霧粒から見た盆地霧についてーこれまでの研究
の検討」
*宮田賢二(県立広島女子大学名誉教授),
瀬戸信也(広島県保健環境センター)
- 9 「連続観測からみた地表面熱収支の日変化・季節
変化」
*中島隆秀, 塚本 修(岡山大学自然科学研究
科)
- 10 「森林における熱収支のインバランスと大気安定
度・地形条件の関係」
*氏家康介(岡山大学環境理工学部), 滝本貴弘
(岡山大学自然科学研究科), 岩田 徹^{†1}, 三枝
信子(産業技術総合研究所), 山本 晋^{†1}
(^{†1}岡山大学環境学研究科)
- 11 「複雑地形の森林におけるCO₂貯留量の時間変化
と大気安定度の事例解析」
*吉川正洋(岡山大学環境理工学部), 滝本貴弘
(岡山大学自然科学研究科), 岩田 徹^{†1}, 三枝
信子, 村山昌平(産業技術総合研究所), 山本
晋^{†1}(^{†1}岡山大学環境学研究科)
- 12 「水稻群落における葉面積指数測定の間接法と間
接法の比較について」
*濱田早知子(岡山大学環境理工学部), 伊野部
京子(岡山大学自然科学研究科), 岩田 徹,
山本 晋(岡山大学環境学研究科)
- 13 「水稻群落と大麦群落における熱エネルギーおよ
びCO₂フラックスの特性」
*盛本真代(岡山大学環境理工学部), 滝本貴弘
(岡山大学自然科学研究科), 岩田 徹, 山本
晋(岡山大学環境学研究科)
- 14 「日本海沿岸域の海水炭酸の経年特性について」

- *伊達尚史(岡山大学環境理工学部), 出晴寛基(岡山大学自然科学研究科), 岩田 徹, 山本晋(岡山大学環境学研究科), 山下隆男(京都大学防災研究所)
- 15 「海面 CO₂フラックスの測定手法の比較について」
*長谷川美穂(岡山大学環境理工学部), 渡辺千香子, 岩田 徹, 山本 晋(岡山大学環境学研究科), 塚本 修(岡山大学理学部)
- 16 「盛夏期から秋雨期における東アジア前線帯への南風侵入過程について」
*中山祐貴(岡山大学教育学研究科理科教育専攻), 加藤内蔵進(岡山大学教育学部理科教室)
- 17 「領域気象モデルによる小型ハイブリッド発電システム発電量の予測可能性」
*柴田昇平, 菅谷 博, 伊吹俊彦, 笠原賢明, 東出忠桐(近畿中国四国農業研究センター)
- 18 「高精度な簡易気温測定器の開発について」
*東地雄一郎^{†1}, 重田祥範(岡山理科大学総合情報研究科), 酒井 敏, 梅谷和弘(京都大学人間・環境学研究科), 大橋唯太^{†1} (^{†1}岡山理科大学総合情報学部)
- 19 「キャノピー層内の気温・湿度分布と海陸風による熱・水蒸気輸送との関連性」
*重田祥範(岡山理科大学総合情報研究科), 東地雄一郎^{†1}, 酒井 敏, 梅谷和弘(京都大学大学院人間・環境学研究科), 大橋唯太^{†1} (^{†1}岡山理科大学総合情報学部)
- 20 「岡山市の高層ビル街と低層住宅街で観測された温熱指標の違い」
*大橋唯太(岡山理科大学総合情報学部), 川邊智一(岡山理科大学総合情報研究科)

特別講演

題目:「グローバルな気候変動と日本の気候」

講演者: 行本誠史氏(気象研究所気候研究部)

英文レター誌 SOLA の投稿・受付/審査・査読新システムの導入について

日本気象学会では、近年の気象学の学際的な大気科学への急速な発展を背景として、より速報性と流通性を重視した英文電子ジャーナル SOLA を2005年1月に創刊いたしました。SOLA は、2004年10月の論文受付開始以来これまでに81件の論文を投稿いただき(10月26日現在)、順調なスタートを切ることが出来ました。

SOLA では、創刊以来これまでは、受理論文の公開のみを科学技術振興機構(JST)が運営する J-STAGE 上で行い、論文の投稿・審査は主として電子メールによる手作業で行ってききましたが、本年10月29日をもって、新たに JST の投稿・受付/審査・査読システムを導入し、投稿から J-STAGE への掲載までを一体化した新システムに移行いたしました。

この新システムは、これまでの電子メールによる投稿受付に替わり、SOLA のホームページ(<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/sola/>)を窓口として、投稿・

受付処理から査読、受理判定に至る過程をすべて処理するものです。新システムの導入により、論文審査を従来より迅速かつ円滑に進めることができると共に、投稿者も論文の審査状況が Web を通じて確認できるようになりました。これにより、SOLA は Web を媒体としたレター誌として、より相応しい体裁を整えたこととなります。

会員の皆様には、一層パワーアップした SOLA へ、是非とも意欲的な論文をご投稿いただき、本誌を盛り立てて下さるようお願いいたします。

なお、SOLA の編集規定や投稿規定の最新版は、以下の学会ホームページをご覧ください。

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~sola/msjsola/msjsola.html>

日本気象学会英文レター誌「SOLA」編集委員長
田中 博